

令和5年度第1回庄原市初任者研修会

令和5年4月19日（水） 庄原市役所 第1委員会室

「庄原市における教育課題を踏まえ、新任教職員に対して教育推進上の諸課題等について研修を行い、職務遂行上必要な実践的指導力を養うこと」を目的に、研修会を行いました。

【参加者：小学校教諭6名、中学校教諭5名、栄養教諭1名】

【講話】「基礎・基本を徹底する！」

庄原市教育委員会 教育長 牧原 明人

教職員として目標を持ち、基礎・基本を徹底する。学校は、子供たちにとって「希望」であり、子供は、伸びたくて伸びたくて、学びたくて学びたくてたまらないと思っている。指導者自ら学び続ける姿勢が大切である。「指導力＝専門性×人間性＋教養」である。良き出会い、良き人間関係を大切に、学校・家庭・地域が一緒に行う教育活動を通して、「庄原で学びたい」と思われる教育を創造してほしい。



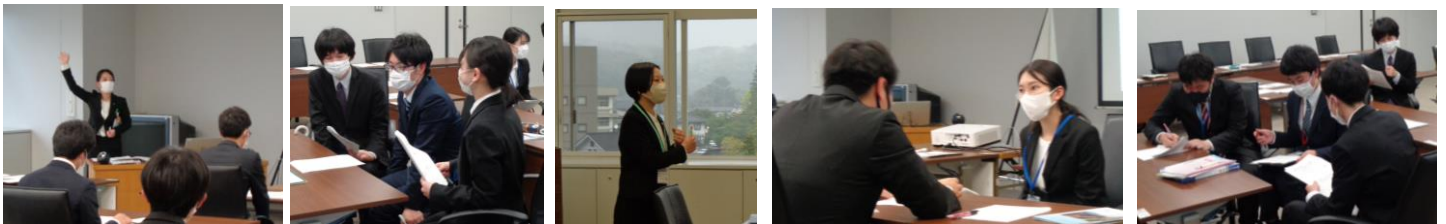
(参加者の振り返りより)

- 教職員としての心構えである、基礎・基本の重要性、学び続ける姿勢の大切さを改めて実感した。庄原市の教職員として、子供たちが「庄原に帰ってきたい」と思える教育活動を実践したい。
- 教職員は、子供がいるからこそ存在し、子供たちに教育的愛情をしっかりと注がなければならないことを再確認することができた。そのためにも、自分の中で徹底することを決め、目標をしっかりと持ち、生活習慣を整え、万全の状態の子供たちに接していく必要がある。

【講話・演習】「特別な支援を必要とする児童生徒の指導の在り方について」

庄原市教育委員会 教育指導課 指導主事 藤井 遥

- 特別な支援を必要とする児童生徒の指導の在り方について、事例を用いながら講話・演習を行った。
- ・特別な支援を必要としている児童生徒の割合は増加傾向にあり、本市においても同様の傾向にある。
- ・特別支援教育は、障害のある児童生徒の自立や社会参加を図るため、一人一人の教育ニーズを的確に把握する必要がある。そのためには、前学年や家庭での様子などを踏まえ、全教職員で多面的・多角的に実態把握を行う。また、効果のあった方法等についても整理していく。



(参加者の振り返りより)

- 様々な特性を有する子供たちがいる中で、どのような支援を講じていくべきか、一人で考えるのではなく、複数人で考えることで、多くの提案がなされ、様々な支援方法を考えることができるということを今回の交流で実感した。
- 子供がなぜ、そのような行動をとるのか、背景や原因を探ることが大切であることを学んだ。「子供は困っている」ということを意識しながら、その子供に応じた支援ができるようにしていきたい。

【講話・演習】「接遇マナー」

庄原市教育委員会 教育指導課 指導主事 福田 和宏

- 接遇マナーについて、講話・演習を行った。
- ・接遇は「思いやり」をもって相手に接することである。
- ・接遇マナーは、社会人としても大切なことであり、相手の立場に立った対応をすることが大切である。
- ・接遇マナーの五原則を意識することで、様々な効果が期待できる。

(参加者の振り返りより)

- 電話対応や来客対応、訪問先でのマナーなど、現時点ではできていなかったことがたくさんあり、今回の研修でマナーの在り方を知ることができた。接遇マナーは、社会人として身に付けなければならないことなので、今後もしっかり学んでいきたい。